

拔山先生の胸像完成



拔山平一先生像 吉野 毅作

拔山平一先生 胸像贈呈事業報告

拔山平一先生の胸像を建立し、東北大学電気通信研究所に贈呈しようというお話が大久保謙・西村英一・松前重義等の諸先輩から持ち上り、昭和五十三年に、「拔山平一先生の胸像を東北大学に贈呈する事業会」が発足しました。事業会の運営は、二村忠元・和田正信両教授を中心に進められました。事業は、千五百十名の個人と二十名の法人という多数の御賛同、御協力があられ、当初の計画を

多少上廻る資金ができました。胸像は前に青葉山電気系の中庭に建立した八木秀次先生の胸像と同じく吉野毅氏の制作によるもので、電気通信研究所一号館の前に飾つてあります。胸像の台には、表に西村英一氏の筆で、「拔山平一先生」の文字、裏には松前重義氏の書による説明文(写真)がはめられています。昭和五十四年九月十二日に除幕式と記念講演会を、拔山先生

亡人、御家族等をお招きして挙行し、約三百名の参加を得ました。大久保謙・福島弘毅両氏に、お話しいただきその後の祝賀会では松前重義・浜田成徳氏等のお話もあり、拔山先生の思い出話に花が咲きました。胸像は、今後永く電気通信研究所を中心とする我々電気系の研究を、時には叱咤、時には激励しながら見守って下さることであります。(城戸記)

拔山先生を憶う

大久保 謙

仙台の東北帝大に、工学部が設けられたのは、前々から判っていたので、全地の工業専門部に、大学の教授の候補者を、集めておくという事が大正の初め頃には内定していました。拔山先生は、大正二年東京帝大工学部電気工学科を卒業し、直後前述工学専門部の講師と

教授となりました。先生は大正十年に、ベクトルパワリーの不生不滅論を発表し、有名論文を学会に発表して、今十三年五月十九日に、工学博士の学位を得られました。私は大正十三年四月工学部電気工学科に入学し、十三年三月迄三年間、拔山先生の教育を受けた者であります。先生は極めて謙遜な真面目な方で、なれない学生から見ると、何となく怖い感じがして、つき難い先生に見えま

拔山平一先生

碑文
松前 重義氏 筆
西村 英一氏 筆

拔山平一先生は東北帝大工学部教授として、電気通信系として人生を全うされた。電気現象の基礎理論の開發、電気音響工学、超音波工学の研究を導いた。ここに東北大学電気通信研究所の創設者である先生の偉大な生涯を後世に傳へる。

電気・情報系運営委員会

情報系の近況
電気・情報系運営委員会

同窓会
東海支部便り

テナのゲインなんて云うことは判りませんが、その答えは先生は、そうかそれでは自分が書いた電流論の本に、アンテナのゲインというものが書いてあるから、本を買って読んでみようか、と、はい判りませんでした。社で開いて見ると、式ばかりで判らないので、若い者にやってみて下さいと答えて、多分先生に叱られるかと思つていた処、本は買えばいいんだよ、と、判りませんでした。本は買えばいいんだよ、と、判りませんでした。本は買えばいいんだよ、と、判りませんでした。

東北大学電気情報系の近況
電気・情報系運営委員会

同窓会
東海支部便り

電気通信研究所の近況

電気通信研究所は、創立後44年を経過し、現在研究部門20と付属通信用結晶育成実験施設、付属格子欠陥構造解析実験施設及び付属工場を擁している。今日の電気通信の技術はきわめて広範囲に及

同窓会 東海支部便り

名古屋を中心とした東海地方には、現在約二百名の同窓生が在任しており、活躍中である。支部設立以前にはお互いの親睦をはかる機会もほとんどなかった。この度、東北大学電気工学科で、情報工学教室では中村維男助手が、それぞれ助教授に昇任しております。以上のようないくつかの教員移動があり、今年度の教員陣容は次のようになります。

同窓会 東海支部便り

名古屋を中心とした東海地方には、現在約二百名の同窓生が在任しており、活躍中である。支部設立以前にはお互いの親睦をはかる機会もほとんどなかった。この度、東北大学電気工学科で、情報工学教室では中村維男助手が、それぞれ助教授に昇任しております。以上のようないくつかの教員移動があり、今年度の教員陣容は次のようになります。